

第4回県立高等学校改革懇談会（福島西・福島北）記録

- 日 時 令和6年1月25日（木）10時30分～11時30分
- 会 場 福島北高校 大講義室
- 傍聴者 4名

（1） 開会

（2） 県立高校改革監あいさつ

【佐藤隆広 県立高校改革監】

県立高校改革監の佐藤でございます。本日はお足元の悪い中、お集まりいただきありがとうございます。また、日頃より本県の教育に多大なる御理解と御協力をいただき、感謝申し上げます。

昨年11月に開催いたしました、第3回県立高等学校改革懇談会では、中学生対象のアンケート結果、統合校で使用する校舎について、教育目標や教育方針、各学科の目標や特色ある取組、統合校の魅力化につながる取組、進学指導重点校としての進学指導の方向性、部活動の設置方針などについて説明いたしました。

皆様からは、「在校生の気持ちを考え、他校で実施した校舎方式を採用してほしい」という御意見や、「部活動において、福島北高校のグラウンドを利用してほしい」など、様々な御意見を頂きました。

本日は、前回の懇談会で頂きました御意見や御要望に対する県教育委員会の考え方を示すとともに、これからの時代を担う子どもたちに、より良い教育環境をつくっていくための方針を説明いたします。どうぞ、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

（3） 説明

（4） 懇談（進行 佐藤隆広 県立高校改革監）

【横山信一委員（福島北同窓会長）】

前回と同じ意見である。利便性以外、グラウンドにしても校舎にしても福島北高校（以下、北高）のほうが広い。統合校として北高を使用してほしい。その思いは変わらない。前回の懇談会で、両校の住居別生徒数を示していたが、その図については、安達高校、川俣高校、旧保原高校の普通科との絡みで通学しているのではないかと考える。統合校は探究科をはじめ、デザイン科学科や総合学科を設置する。利便性だけでなく、その他の要素も踏まえて、統合校を北高に置いてほしい。

【中野正人 県立高校改革室長】

前回の懇談会で示した図（各校の居住別生徒数）については、現在、福島西高

校（以下、西高）と北高に通学している生徒数である。西高の約 61%の生徒が福島市内から通学している。その一方で、南は本宮市、大玉村、北は国見町、桑折町、伊達市も含めて大変広範囲から通学している。北高については、およそ 9割近くが市内から通学、それ以外は国見町、伊達市、桑折町の北部より通学している。統合校に設置する学科、探究科、デザイン科学科、総合学科についてはいずれも県下一円から募集できる学科となるので、今よりも通学範囲が広がる可能性がある。加えて最近の生徒の志望動向として、都市部志向があり、都市部の高校に進学したいと考える生徒が非常に多い。都市部の駅に近いことは利点であり魅力である。ターミナル駅である福島駅からより近い西高の校舎を使用することを前回において説明した。

【山下喜之委員（福島北 PTA 会長）】

西高は元々女子校である。男女共学になり西高ができた。グラウンドの大きさは女子に合わせたものである。そこに男子が入ってきたため、部活動については無理が生じている。硬式野球部など複数の部が使用することにより、事故が起きることが目に見える。前回も話をしたが、生徒の安全面を考慮し、北高のグラウンドを使用させてほしい。

噂として私立高校のサッカー部で、「北高のグラウンドを部活動で使用できる。」主旨の話を聞いている。そのような話が先走っている。県として釘をさしてほしい。

西高は人気が高いことはわかっているが、一方で市内の他の県立高校に届かない生徒が出願しているようにも感じる。西高に入学できない生徒は、市内の私立高校に行った方が良いと思っているようだ。北高が統合しても私立に流れるので結局、他の県立高校の入学生が減るのではないか。北高が統合することは仕方がないと思うが、忍び難い話も出ている。

繰り返しになるが、部活動に関して生徒の安全面を第一に考えてもらいたい。第 1 回において、委員より野球部の活動に関する話があった。その際、県の回答として、別の場所での活動について話をしていたようだが、その時と状況は変わっている。硬式野球部の活動場所として、信夫ヶ丘球場が使用できない。西高のグラウンドも難しい状況である。周りが変化していることも考慮してほしい。

【中野正人 県立高校改革室長】

私立高校のサッカー部については初耳である。存じ上げない話である。部活動に関して、安全面に配慮して活動場所を考えてほしいという御意見であったが、先ほども説明したとおり、統合校に設置する部活動は、統合前に両校において精選をおこなう。生徒の活動に支障がないように両校でしっかり考えながら進めていく。御理解いただきたい。

【村上敏通委員（地元有識者）】

北高のグラウンドを使用できることもあるのか。

【中野正人 県立高校改革室長】

統合校は校舎方式を採用するため、令和10年度までは北高の校舎も使用する。令和11年度から北高は空き校舎となる。空き校舎の利活用については県が主体となって対応していく。

【村上敏通委員（地元有識者）】

「主体となって」の意味合いはということか。また、部活動の精選について、「現在、両校で活動している全ての部活動から精選する」となっているが、どのようにして精選していくのか。精選の仕方を教えてほしい。

【中野正人 県立高校改革室長】

部活動の精選については、中学生の興味関心も非常に大きなところがある。今後、両校で話し合いながら決めていく形となる。

県が主体となって対応することに関しては、県有施設である北高を閉校舎後、どのような形で利活用を進めるか。県が主体となってしっかり対応していきたい。汗をかきながら対応していく。

【村上敏通委員（地元有識者）】

私の意見としては、西高の敷地は広げることにはできないので、是非とも北高が空き校舎になっても部活動等で利活用してほしい。また、充実した教育のために、北高の校舎を何かしらの形で利活用してほしい。是非とも検討していただきたい。また、部活動の精選については透明性を心がけておこなってほしい。北高の野球部は甲子園に出場した部である。そのような伝統を考えて継続してほしい。繰り返しになるが、主体的な部分に関してどのように考えているのか。

【中野正人 県立高校改革室長】

繰り返しになるが、統合校に設置する部活動については、統合前に両校において、相談しながら、精選していくことになる。

県が主体になって対応することについては、どのような利活用があるのか、利活用の方法に関して様々な考えがある。その利活用の対応を県として主体となり動いていくことである。

【渋谷隆之 福島西高校 PTA 会長】

校舎方式の採用により、令和10年度までは両校の施設を利用して部活動を行うことになると思うが、両校の同じ部活動の交流、例えば、西高の生徒が北高の施設を使用する、その移動手段について、活動の機会が失われないよう検討をお願いしたい。恐らく管理上の困難があるのは承知しているが、西高の運動部の5つが校庭で、ローテーションを組んで実施している。一体どの程度活動できているのか。統合校において、西高の施設が狭いので、活動ができないとか、あの面積で活動するのであれば、入部しなくてもいいやと、生徒が考えて入部しなかったら生徒が割を食う話になってしまう。精選に関して、伝統であったり、希望する人数であったり、いろいろあると思うが、大人の側で考える施設での活動に

より、制限がかけられてしまうとか、施設がないから活動ができない話はとても残念なことである。どの部活動を存続させるのか、廃部にするのか、先生方で検討することになると思うが、うちの施設ではできない、この人数ではできないという環境的な部分で制約が出ないよう、検討をお願いしたい。

皆さんが話していることに関して、管理の難しさはあるが、広い敷地や部活動で使用する施設について、管理できる範囲で使用できるよう、前向きに検討していただきたい。

【森下陽一郎 福島西高校長】

部活動の件については、最終的に両校長、両校でしっかりと判断すべきことだと思っている。いろいろと御意見を頂いたが、入学する生徒にとって、部活動は一つの大きな魅力であると思う。精選については、現在、北高の中村校長と慎重かつ丁寧に進めている。その観点については様々ある。我々も教員であるので、生徒が活動したい部活動を全て残したいが、そこに発生する顧問の割り振りや責任等、いろいろと考えていくと、学校の経営者としては、そこはできないと言わざるを得ない部分も出てくる。その中で、私が考えている観点を大きな一つとして、教員数がある。顧問に関して、できれば1つの部活動に2人体制としたい。それができている学校もあれば、現在の西高は兼務している教員もいる非常に良くない状況である。また、部員数もある。学校によっては、部員がしばらく入部しないときには、休部や廃部の流れが決まっているところもある。それから、専門の指導者、例えば、格技の種目であれば、指導者がいないと大きなケガにつながる。地域の部活動指導員等もいるが、すぐに見つかるとは限らない。課題の1つとなってくる、今ほどの意見にあった施設。活動したいが、施設が遠くになってしまう。難しい課題になってくる。もう一つ大事な観点として、例えば統合校に部活動を設置しない場合に、地域に与える影響はどうなのか。例えば体操部。統合校に設置しなければ、県北地区の体操は終わってしまう。このような地域振興の観点も出てくる。様々な部活動があるが、西高で活動したいが、他の高校においても活動できる状況は残しておきたい。福島市でその部活動が活動できない状況はどうなのか。そのような観点も盛り込みたいと考えている。

教員数、専門性、部員数、施設、地域での部活動の状況などを考えながら精選を行っている。なお、教員数については人事の問題である。統合校の教員数について見えていない部分もある。生徒が本当に笑顔で学校生活を送るような状況をつくりたいと思っている。その一方で学校の経営もあるので、そこは涙をのんでくださいという場面もあり得る。御理解いただきたい。両校に設置されている野球部、西高にしかないサッカー部についても議論している。それがなくなったらどうなるのか。継続するためには何が必要か。中村校長といろいろと話をしている。課題はたくさんある。少しでも良い方向となるよう、今まさに検討している。

【中野正人 県立高校改革室長】

教員数、人事の部分について、今の段階で言えることは何もない。御理解いただきたい。

【渋谷隆之 福島西高校 PTA 会長】

統合校の学科に関して、探究科については自分が経験したことがない。県内の県立高校で探究科を設置して、実績が上がっているところはあるのか伺いたい。

統合校は進学校を目指す説明が以前あった。探究科で想定されている進学先は難関大と資料に記載されていた。現在の西高は、推薦や指定校推薦を利用しての私立中心であると思うが、探究科について、国公立大学、一般入試で受験できるぐらいの想定か。それとも探究科の実績をもとに指定校推薦等で目指すのか。曖昧になってしまうと、高校選択の材料が不足し、選ばれなくなる可能性もあり得る。具体的に目指すところを示してほしい。もう一つ、お願いがある。探究科や総合学科を成立させるためには、教員数、慣れや経験の部分は大きい。是非優先的な配置がされるように考えていただければありがたい。

【中野正人 県立高校改革室長】

探究科の実績に関して、探究科自体、新しい学科である。他県では平成 30 年から学科の開設が始まった。その流れについては高大接続改革が関係している。試験形態において、従来の学力を問う一般入試から総合型選抜入試に変わりつつある。東北大においても将来的には、一般入試から総合型選抜へ切り替える報道もある。「何を学んできたか」だけでなく、「どのように学んできたのか」が問われる入試に変わってきている。その意味で、探究型学習が非常に重視されていることを御理解いただきたい。

県内においては、令和 6 年度に修明高校で文理探究科が開設される。従来の進学に対応した文理科から、より探究活動を充実させ、進学実績を上げるために文理探究科に改編する。また、令和 7 年度には郡山高校に探究科を設置する。1 学年探究科 2 学級、普通科 4 学級の計 6 学級の構成となるが、探究科においては、特進クラスと位置付けている。難関大を目指し、国公立大の実績を上げられるような学びの形態にしていきたいと考えている。統合校の探究科も進学に特化した学びを行う学科として後期計画で示し、現在検討を進めている。

なぜ、今探究科なのか。従来の授業は、一斉授業形式で教員から教わり、知識・技能を身に付ける学びが主流であった。現在はそれだけでなく、各教科・科目で学んだ知識を総動員して、地域や世界的な課題に対する解決策を探究していく。解決策を見出しながら発表し、助言や意見をもらい、探究を深めていく学びである。大学側もこのような学びをしている生徒を求める流れとなっている。そのような探究科を考えている。

【渋谷隆之 福島西高校 PTA 会長】

そのような学びをコーディネートできる力のある教員が、配置されることに

なるのか。

【中野正人 県立高校改革室長】

御指摘の通り、そのような力量のある先生方は、最初の段階でどうしても必要になってくる。そこで一緒に経験した教員が力量を高めて転勤し、他の学校で力を発揮することで、県内の全体的な指導力向上、ひいては学力向上に繋がっていくと考えている。

【紺野篤男 地元有識者】

校舎方式の採用や北高の跡地に関して県主導で対応する点に関して、前回の懇談会での意向を取り入れていただき、非常に前進していると思う。

高校を設置する場合に、入学する生徒の利便性や進学を中心に考えることは当然だと思うが、地域の人間にとっては、地域の発展も考慮して学校設置を考えてほしい。北高は飯坂地区にあり、地区との交流を盛んに行っており、地域の活性化に非常に役立っている。その高校が統合されると、高齢化が進んでいる地域にとっては非常に大きいデメリットである。

それから、通学に関して、西高は福島駅から歩いて数分のところにあるが、北高に通学する手段として飯坂電車がある。福島駅から乗車して通学すると、歩く距離は、福島駅から西高に行くよりも近いかもしれない。今更ではあるが、校舎選定の際にこのような点も考慮したのかどうか。

部活動の精選については、今後両校で検討していくと思うが、これまでの話を聞いていると、西高のグラウンドは狭いため野球部は多分駄目であるニュアンスが非常に強い。そうではなくて、例えば、野球部の入部希望者が多い場合には、北高の施設を利用して行き、野球部を残すようになっていくのか。

【中野正人 県立高校改革室長】

地域の発展も含めて、令和11年度以降の福島北高校の利活用については、県が主体となって対応をしっかりとしていきたい。

飯坂線を利用した場合に北高は駅に近い。その通りであるが、駅に達するまでの通学時間を含めて考える必要もある。

部活動の精選に関して、野球部やサッカー部など具体的な部活動名が挙がっているが、先程、森下校長が説明したとおり、どのような部活動を設置するかはこれから検討していく。我々としても、部活動は学校の魅力の1つになっていくと認識している。その精選については、両校において主体的に考えていくことになるので、後押ししていきたい。

【中村充幸 福島北高校校長】

先程、森下校長からの説明にもあったように、部活動については、両校の校長を中心に検討している。統合校において「魅力が失われるのは良くない」という認識は共通している。また、魅力をどのようにつくっていくのか。カリキュラムによる視点、部活動による視点は両校でもっている。その中で、教職員定数の問題

がある。また、世間では、部活動について長時間労働の問題に繋がっていると言われている。魅力をアップするにはどうするかという視点とともに、学校経営する上で教員の働き方改革という視点も当然入れていかなければならない。そのような点も含めて魅力ある学校となるように、部活動においても今後精選を重ね、よりよい部活動を残していきたい。

【佐藤静子 地元有識者】

探究科の学習の充実にある「専門家による指導助言」の専門家は、どのような専門家を想定しているのか。

【中野正人 県立高校改革室長】

探究する分野や課題については、生徒自身が見つげ出して設定する。例えば、環境に関すること、農業に関する課題について解決策を見出していく過程の中で、農業であれば、地元農家などの農業の専門家に、それぞれの課題に応じて指導や意見をもらう。そのような専門家である。

【佐藤静子 地元有識者】

今は得意なものをもっている生徒は東大にも入学できる時代である。そのような生徒を大事に育てていかなければならないと思う。

統合校の探究科において英語と数学の力、どちらも身に付いている生徒はもしかしたら多くはないかもしれない。その際に、例えば、数学の力を発揮させたいときに、中学校のときに育まれなかった英語の力をフォローアップする内容を扱うこともあっていいのではないか。他の教科の力があっても、肝心の教科において力がないために、その先に進めない生徒が一定数いる。その改善として、例えば 1 年生から少人数授業を展開するなどきめ細かな指導を取り入れてもよいのではないか。

【中野正人 県立高校改革室長】

英語や数学の専門科目を設けることについて、英語、数学に関する力は現在非常に強く求められている。それらを通して、しっかりと力をつけさせていきたい。フォローアップに関しては、これまでも両校の先生方に生徒たちのケアをしていただいている。統合校においても、生徒たちにしっかりと寄り添った丁寧な学習指導、進路指導を実践していけるよう進めていきたい。

【伊藤隆之 地元有識者】

新しい学校であるので、学科についても注目されていると思う。デザイン科学科について、昨年開催したオープンスクールでは、100名くらいの参加があったと保護者から伺った。他県のデザイン科学科では、進学コース、進学就職コースを打ち出しているところもある。現在の西高では2年次より3つのコースに分かれて学習しているが、統合校として今後どのように展開するのか、保護者や子どもたちにわかりやすく、デザイン科学科でも将来性があることを見せられるように検討をお願いしたい。

また、校舎方式を採用することでの問題点、維持は可能であるのか。コスト面や敷地利用に関して、現時点でどのように考えているのか。

【中野正人 県立高校改革室長】

デザイン科学科について、現時点では、主に美術系大学への進学を想定しているため、基本的には進学に対応できるように指導していく。その中で、就職を希望する生徒が出た場合には、カリキュラムを変えずに、就職試験に向けて個別指導で対応していくことになる。

校舎方式を採用した場合でのコスト面での課題について、統合した場合には1つの学校に集約することが原則である。しかしながら、在学中の生徒の学校生活が心配される御意見を頂戴した場合には、それにしっかりと対応しなければならないため、校舎方式を採用する判断をこれまでも行ってきた。2つの校舎を使用していけば、それなりにコストはかかるが、生徒たちの学びや学校生活のために御理解をいただき進めていくとしたものである

【佐藤秀美 福島市教育委員会教育長】

校舎方式のメリットとして、資料P8に「生徒が慣れ親しんだ学習環境や人間関係を維持したまま、学校生活を送ることができる」とある。ただ、一方で令和8年度北高に入学した生徒は、下級生がいない中で3年間過ごしていく状況となる。前期統合校でも校舎方式を採用してきたと思うが、デメリットはなかったのか。例えば、この資料を示したときに、北高に入学する生徒が激減するようなデメリットはないのか。そのデメリットを乗り越えるための交流会や合同行事に関して、具体的にどのようなことを行っていくのか。

【中野正人 県立高校改革室長】

前期計画で校舎方式を採用したところでは、開校前々年度に中学2年生対象に校舎方式採用に関する説明を行ってきた。また、その上の学年に対しても説明を行ってきた。そうした中で、入学生が減少した学校は確かにあった。そこでは、そのような学校生活を望まないところも恐らくあったのではないかと考えている。一方で、統合前に入学した生徒が、その校舎で卒業まで学ぶことに関して、最終的に良かったと保護者から話を伺っている。確かに、卒業まで後輩がいない中で学校生活を過ごすことは心配されることではあるが、現在校舎方式を採用している学校においては、交流の場として、例えば、校舎は2つに分かれているが、統合校として1つの学校であるため、放課後や休日に合同で部活動等を行っている他、文化祭においても学校の状況に応じて一緒に行っているところもある。福島西・福島北統合校においても、前例の取組を参考にして実情に合わせた学習活動に取り組んでいただきたい。

【佐藤秀美 福島市教育委員会教育長】

過渡期の生徒たちの面倒をしっかりと見ていただきたい。北高を選択した生徒が入学して本当に良かったという思いで卒業できるようにしていただきたい。

例えば、生徒が減少すれば教員の定数も減少する。しかし、学びをしっかりと保障するとか、オンラインを活用しながら 2 つの校舎で学ぶ生徒たちが日常的に交流できるようにするとか、胸を張って卒業できるようにしっかりと県教委で保障していただきたい。

【中野正人 県立高校改革室長】

今後とも頂いた御意見を参考にしながら、統合校の教育の在り方について検討していく。

【村上敏通委員（地元有識者）】

要望として 3 つある。1 つ目として、前回の懇談会でも話をしたが、進路選択に悩む中学生にとって、総合学科のカリキュラムは非常に素晴らしいものである。県教委でも中学生に説明する場合にその素晴らしさについて強調してほしい。

2 つ目として、統合校の 2 つの学科に比べ総合学科の生徒数が多い。話を聞いていると探究科、デザイン科学科がエリート化、差別化される印象がある。同じ年齢の生徒であるので、そうならないような方策を是非とも考えていただきたい。

3 つ目として、部活動の選定については、北高の施設を 2 年間使用することになっているが、北高の校舎敷地を十分考慮して選定していただきたい。

【山下喜之委員（福島北 PTA 会長）】

統合校のレベルについて教えていただきたい。以前頂いた資料では、橘高校、福島東高校と同じ枠組みに入っていた。子どもたちは、部活動や学科で選ぶところもあるが、自分の学力のレベルで選ぶ生徒も結構多いと思う。その場合、福島高校、橘高校、福島東高校と選別してくる。その一方で、工業高校や商業高校は職業高校として位置付けられている。統合校は、職業に関わる部分や大学進学に関わる部分があるが、どのレベルで考えているのか。保護者はまず、学力のレベルがどの程度かを見て考える。

【中野正人 県立高校改革室長】

入試のレベルについては県が考えるものではない。統合校については、進学指導重点校に位置付け、大学等の進学にしっかりと対応する学校である。進学指導重点校として橘、福島東と同じ位置付けとなる。偏差値については、我々が設定しているものではない。統合校の内容については、適切にそして丁寧に情報発信していく。統合校で学びたい、目指したいと思われるような学校づくりを進めていきたい。

【佐藤隆広 県立高校改革監】

本日は貴重な御意見や提言を頂き、ありがとうございました。

また、方向性につきましては、皆様からいろいろ御意見を頂戴しまして、概ね御理解を頂いたものと思っております。ありがとうございました。

今後は、これまで頂きました御意見も踏まえまして、両校の校長先生等と相談しながら、より具体的な検討を進めるとともに、当事者である中学生、それから保護者の皆さんに対して、前回の懇談会でも御意見を頂戴しましたが、学校の魅力について、丁寧に早く情報発信を行いながら、説明を行っていきたいと考えております。

この懇談会ですが、これまで今日を含めて 4 回となりますが、今回で一区切りの形とさせていただきます。

各学科の特色ある学び、大学、それから地域との連携した学び、こうした学びをとおしまして、各分野のリーダーとして社会の発展を牽引していける、あるいは貢献する人材を育成する、魅力ある統合校をしっかりと作り上げていきたいと思っております。教育課程の部分につきましては、そこを含めて、今後さらに検討を進めていきたいと思っております。委員の皆様にも、その検討の進捗内容につきましては、必要に応じてお伝えさせていただきたいと思っております。

委員の皆様には、これまで忌憚のない御意見を賜り改めて感謝申し上げます。本日はありがとうございました。

終了